



勅使河原宏(てしがはら ひろし)

1927年、勅使河原蒼風の長男として東京に生まれる。50年、東京美術学校(現、東京芸術大学)美術学部油画科卒業。在学中より岡本太郎、安部公房らを知り、前衛芸術運動「世紀」に参加。53年、詩人・瀧口修造が途中まで進めていたものを、新たな構想により完成させた美術映画「北斎」を初監督。亀井文夫監督に師事した後、劇映画第1作「おとし穴」で、62年度NHK新人監督賞受賞、ATG初の日本映画監督となる。「砂の女」(64年)「他人の顔」(66年)「燃えつきた地図」(68年)など安部公房の原作を映画化、シュールで独特な映像美で高い評価を得た。「砂の女」で、カンヌ映画祭審査員特別賞、サンフランシスコ映画祭銀賞、毎日映画コンクール日本映画賞、監督賞、キネマ旬報ベスト・ワン、監督賞など受賞。

58年には草月アートセンターのディレクターに就任。ジャンルを超えた芸術・文化活動を推進した。62年にアートセンターが招聘したジョン・ケージとデヴィッドチュードアの演奏会は、「ジョン・ケージ・ショック」という衝撃を芸術の諸分野に巻き起こした。80年、草月流第三代家元に就任。国内外で竹を使った大規模な個展を開催。いけばなの枠を超えた空間造形として高い評価を得た。

89年映画「利休」でモントリオール世界映画祭最優秀芸術貢献賞、芸術選奨文部大臣賞を受賞、92年映画「豪姫」監督。92年、96年フランスとスイスにおいてオペラ「トゥーランドット」舞台美術と演出。94年アビニョン演劇祭において創作能「ササノオ」の舞台美術と演出。陶芸や書にも才能を発揮し、旺盛な創作活動を展開した。その幅広い文化活動に対し、85年、96年にフランス政府より芸術文化勲章受章。92年紫綬褒章、97年には勲三等瑞寶章受章。2001年白血病のため死去。享年74。

## 十二人の写真家

製作＝研光社／1955年／49分／白黒／デジタル  
監督：勅使河原宏／撮影：御木本良  
出演：木村伊兵衛、三木淳、大竹省二、秋山庄太郎、林忠彦、真樫不二夫、早田雄二、濱谷浩、稻村隆正、渡辺義雄、田村茂、土門拳



© 1955 草月会

『フォトアート』創刊6周年記念作品。12人の写真家たちの撮影を捉えたドキュメンタリー。市井の人々をスナップする木村伊兵衛、鵜沼海岸で撮影する大竹省二、モデルを写す秋山庄太郎、自宅の長屋を後にする土門拳。街には戦災の傷跡が残るコンクリートの残骸のなかで遊ぶ子供たちにカメラを向けると、皆がわーっと集まってくる。現場を後にする土門の背中に「終」の文字が重なる。

## ホゼー・トレス/ホゼー・トレス PartⅡ

製作＝勅使河原プロダクション  
『ホゼー・トレス』  
1959年／25分／白黒／35mm  
監督・撮影：勅使河原宏／音楽：武満徹／ナレーター：井川比佐志、矢野宣  
『ホゼー・トレスPartⅡ』  
1965年／58分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／撮影：マービン・ニューマン／音楽：武満徹／ナレーター：芥川比呂志



© 1959 草月会

初の欧米旅行に出会ったプエルトリコ出身の22歳のボクサー、ホゼー・トレスを追ったドキュメンタリー。無敗だった彼の練習やタイトル戦の様子のみならず、白人社会の中で生きるマイノリティの孤独も映しだしている。白黒フィルムとの陰影と武満徹のカッコイイ音楽に痺れる。

## おとし穴

製作＝勅使河原プロダクション／1962年／95分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／原作・脚本：安部公房／撮影：瀬川浩／美術：山崎正夫／音楽監督：武満徹／音楽：一柳慧、高橋悠治  
出演：井川比佐志、宮原カズオ、大宮貴一、田中邦敏、矢野宣、佐々木すみ江、観世栄夫、佐藤慶



© 1962 草月会

安部公房と初めて組んだ初長編。炭鉱、貧困、瓜二つの男、白いスーツの殺し屋、廃集落に残された女、それらを映めている幽霊。栗津潔によるタイトルと前衛的でシュールな映像、武満徹、高橋悠治、一柳慧によるプリペイドピアノとチェンバロの音色が不穏な空気を醸し出し、映画全体がまるで悪夢のような様相を見せる亡霊の映画。

## 砂の女

製作＝勅使河原プロダクション／1964年／147分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／原作・脚本：安部公房／撮影：瀬川浩／美術：平川透敏、山崎正夫／音楽：武満徹  
出演：岡田英次、三井弘次、岸田今日子、伊藤弘子、関口銀三、矢野宣



© 1964 草月会

砂丘に昆虫採集に来た教師自身が砂に囚われ逃げられなくなる。安部公房の個人主義や近代社会への疑いが、脱出を諦め砂の男に変わっていく教師によって露わになる。寄生する生物のような砂の恐ろしさと美しさ、肌に汗と砂がまとわりつく岸田今日子の官能、素晴らしい音楽。国内のみならずカンヌで審査員特別賞受賞、アカデミー賞監督賞&外国語映画賞にノミネート、さらにゴダールとスコセッシを熱狂させた勅使河原宏の最高傑作。

## 他人の顔

製作＝東京映画＝勅使河原プロダクション／1966年／122分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／原作・脚本：安部公房／撮影：瀬川浩／美術：山崎正夫、磯崎新／音楽：武満徹  
出演：仲代達矢、京マチ子、平幹二郎、岸田今日子、入江美樹、岡田英次、市原悦子



© 1966 草月会

安部公房・武満徹・栗津潔に加え美術に磯崎新を迎え日本のアートが結集した傑作。ペルイマン『ペルソナ』やフランジュ『顔のない眼』に並ぶ顔と自己同一性をめぐる物語。病院の造形のカッコよさと看護師の岸田今日子の存在感、顔半分をケロイドで覆われた美少女(入江美樹)と無垢な少女(市原悦子)。そして、終盤のつべらぼう人間の犬群が押し寄せてくるシーンの強烈なインパクトを見よ。

## インディレース 爆走

製作＝協栄プロダクション／1967年／73分／カラー／35mm  
監督：勅使河原宏／撮影：成島東一郎／音楽：浜口庫之助／ナレーション：小沢昭一  
出演：ロミ山田(インタビュアー)



© 1967 草月会

1966年に富士スピードウェイで行なわれた「インディレース」のため羽田に降り立つレーサーたち、メカニックたちを追い、遂に決勝レースを迎える。レースは120人のスタッフと26台のカメラを駆使して撮影された。合間にスピード狂の若者たちへのインタビューが挟まれることで現代におけるスピードの意味が問われる。

## サマー・ソルジャー

製作＝勅使河原プロダクション／1972年／104分／カラー／35mm  
監督：勅使河原宏／脚本：ジョン・ネースン／撮影：大島満洲男／音楽：武満徹  
出演：キース・サイクス、岸輝子、李麗仙、北村和夫、小林トシ子、観世栄夫、中村玉緒、小沢昭一



© 1972 草月会

岩国の米軍基地から脱走したジムは水商売の女に匿われ、援助組織の手配で転々と居場所を移るが…。脚本は日本文学研究家のジョン・ネースン。ベトナム反戦や70年安保などで揺れる社会を、脱走兵の逃走劇を通して炙り出す。2人の脱走兵は勅使河原自身がNYで搜した素人で、ドキュメンタリー的手法が際立っている。勅使河原はこの映画を最後に長編映画から一時撤退し、本格的な復帰は18年後となる。

## アントニー・ガウディー

製作＝勅使河原プロダクション／1984年／72分／カラー／35mm  
監督：勅使河原宏／撮影：瀬川順一／音楽：武満徹



© 1984 草月会

アントニー・ガウディーの生物的な趣のある曲線的建物を幻想的且つ静謐に撮影したドキュメンタリー。ズームイン、ズームアウトの多用、聳え立つサクラダファミリアのおおりのショットなど素晴らしい撮影は瀬川順一によるもの。ナレーションは宮口精二。音楽は武満徹。

## 燃えつきた地図

製作＝勝プロダクション／1968年／118分／カラー／35mm  
監督：勅使河原宏／原作・脚本：安部公房／撮影：上原明／美術：間野重雄／音楽：武満徹  
出演：勝新太郎、中村玉緒、市原悦子、瀧美清、大川修、長山藍子、吉田日出子



© 東京1968

安部公房との最後の作品。失踪した男を探す探偵が次第に自分自身を見失い都会の迷宮に飲み込まれる。勝新は自ら選んだ作品でくたびれた探偵を好演。壊れかけたような女を演じる市原悦子、失踪人の同僚を演じた瀧美清も素晴らしい。歪な画面構成に噛み合わない映像、ちぐはぐな会話、さらに実験的映像も魅力的で突然挿入されるシュールなシーンに引き込まれていく怪物。

## 利休

製作＝勅使河原プロ＝松竹映像＝伊藤忠商事＝博報堂／1989年／135分／カラー／35mm  
監督・脚本：勅使河原宏／共同脚本：赤瀬川原平／原作：野上彌生子／撮影：森田富士郎／音楽：武満徹  
出演：三國連太郎、山崎裕、三田佳子、岸田今日子、北林谷栄、松本幸四郎、中村吉右衛門、田村亮、山口小夜子



© 勅使河原プロ＝松竹映像＝伊藤忠商事＝博報堂

利休と秀吉の茶室という小宇宙での問答は息を呑む緊迫感。赤瀬川原平脚本と勅使河原演出、武満の音楽がひとつになった傑作で、吉右衛門、幸四郎ら歌舞伎役者の他に、ドナルド・リチーや細川護国まで出演している。国宝級の茶器や美術品を揃え、「表千家」「裏千家」「武者小路千家」「草月会」が後援。山口小夜子を淀殿に据えたのも素晴らしい着想で、まさに「美はゆるがない」。

## 豪姫

製作＝松竹＝勅使河原プロダクション＝テレビ朝日＝博報堂／1992年／144分／カラー／35mm  
監督・脚本：勅使河原宏／共同脚本：赤瀬川原平／原作：富士正晴／撮影：森田富士郎／音楽：武満徹／美術：西岡善信  
出演：宮沢りえ、仲代達矢、永澤俊矢、松本幸四郎、三國連太郎、江波杏子、井川比佐志



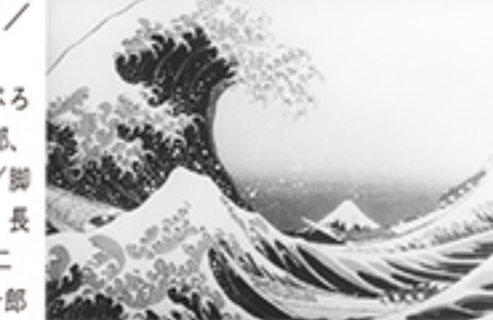
© 1992 豪姫製作委員会

勅使河原監督の遺作となった古田織部と豪姫の物語。当時人気絶頂だった宮沢りえ19歳、仲代達矢と発田ヨシ(秀吉を演じたバリ在位の演出家・俳優)、共同脚本に赤瀬川原平、音楽は武満徹とまさに才能が集結した一大歴史絵巻。自然描写や小道具にも監督の美意識が横溢している。

## 短編集1

## 北斎

製作＝青年ぶるだくしょん／1953年／23分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／企画：青年ぶる(井川宏三、志賀直吉、武者小路辰三郎、名和克良、名和幸夫、勅使河原宏)／脚本・構成：吉川良／撮影：浦島遼、長谷川博美、瀬川順一／音楽：清瀬保二  
解説：加藤嘉／セリフ：河原崎長十郎



© 1953 草月会

北斎の作品と共に音楽や俳句を交えながらナレーションで綴られる彼の人生。バラバラ漫画風のアレンジや、寄ったり引いたりパンすることで、絵としてだけでなく映像として楽しめる。元々は瀧口修造が脚本、武満が音楽で始まった企画だが資金難で製作が中断。プリントが売りに出られ、勅使河原宏監督作品として完成させたもの。

## いけばな

製作＝青年ぶるだくしょん／1956年／35分／カラー／35mm  
監督・脚本：勅使河原宏／撮影：浦島遼／音楽：長沢勝徳／解説：奈良岡朋子／立華：桑原専演  
出演：勅使河原蒼風



© 1956 草月会

奥様方のいけばな教室から後半は一転。現代の生け花とは花を生ける事に非ず、鉄骨やらネオンやらラディカルな活花論が展開される。『北斎』の後に木下恵介の助監督について経験を積みながら出版部長も務めていた勅使河原の初のカラー作品。美学的革命精神に溢れており、50年代のアートシーンとして観ても興味深い。

## いのちー蒼風の彫刻

製作＝草月会(勅使河原プロダクション)／1962年／18分／パートカラー／35mm  
監督：勅使河原宏／撮影：瀬川浩／編集：守随房子／音楽：一柳慧／照明：久米光男



© 1962 草月会

草月流の創始者である父・勅使河原蒼風による独特のフォルムを持った彫刻の数々を、アヴァンギャルドなイメージの積み重ねと音響効果によって構成した異色の美術映画。室内に展示されていた彫刻が、森や海といった大自然の風景と対峙させられ、オーバーストップ、コマ撮り、クローズアップなどの手法によってアブストラクトな映像の動きに作り上げられる。動かない彫刻に内在する「いのち」の躍動を、映画によって再構築する試み。

## 動く彫刻 ジャン・ティンゲリー

製作＝勅使河原プロダクション／1981年／15分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／撮影：瀬川浩、青木利夫／音楽：一柳慧／詩：大岡信／語り：中村吉右衛門



© 1981 草月会

スイスの彫刻家ジャン・ティンゲリーの1963年の初来日時に撮影され、18年後に再編集したドキュメンタリー。ナレーションの台詞は大岡信によるもの。素材となった機械の断片を使って動くオブジェにすることで「機械を目的から解放してやりたい」と述べる芸術家。愉快な永久運動を続ける目的の無い機械群は自由を感じさせる。

## 短編集2

## 東京1958

製作＝シネマ57／1958年／30分／パートカラー／16mm／仏語、英語、日本語  
演出・脚本・企画：シネマ57(勅使河原宏、松山善三、羽仁進、草壁久四郎、萩昌弘、川頭義郎、丸尾定、武者小路辰三郎、向坂隆一郎)／撮影：菊地周、瀬川浩、藤井良孝／音楽：原弘男



© 1958 草月会

実験映画集団「シネマ57」がコンクール出品のため製作した作品。「東京の混沌と古い日本」をテーマに、浮世絵、着物など日本文化を外国人の視線から描く一方、現代東京の雑雑さを対比させる。パートカラーや仏語による説明、早回し等ポップでアバンギャルドで限りなくアート。ドキュとフェイク・ドキュを融合させる手法も斬新!

## 白い朝(4カ国合作オムニバス映画『15才の未亡人たち』の日本編)

製作：にんじんくらぶ／1965年／29分／白黒／35mm  
監督：勅使河原宏／原作・脚本：安部公房／撮影：石元泰博／音楽：武満徹／フィルムモータージュ：栗津潔  
出演：入江美樹、長谷川照子、松下洋子

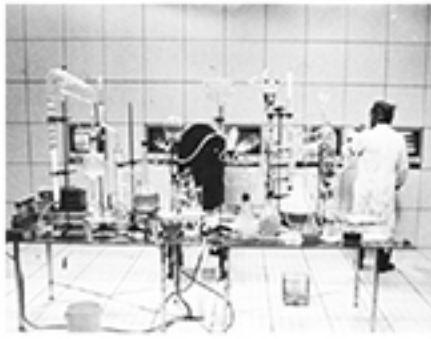


© 1965 草月会

4カ国合作映画の日本編監督に選ばれた勅使河原、武満徹、安部公房、写真家の石元泰博、栗津潔と豪華メンバー。パン工場で働くアコをトップモデルの入江美樹が演じる“労働者の休日”映画。休日を楽しくも若者たちの姿にパン工場での労働が挿入され、街のノイズなどもコラージュされる。クローズアップの多様とカット割りの多さ、音楽と音の使い方が前衛的。

## 1日240時間

製作＝日本自動車工業振興会／1970年／31分／カラー／デジタル  
監督：勅使河原宏／脚本：安部公房／音楽：佐藤勝／特撮：高野一



© 1970 草月会

1970年大阪万博の自動車館で上映された短編作品。生き物の動きを10倍速にするアクセルチン発明が巻き起こす悲喜劇を特殊技術や色彩技術駆使して描いたSFミュージカル。激しいスピードで変貌をとげる社会と拡大される時空間を風刺、ユーモアとエスプリに溢れたセンス抜群の一本。4面スクリーンで上映されていたものを1画面に構成したヴァージョンで上映。

## 秘蔵短編集

## 二人展

製作＝勅使河原プロダクション／1980年／13分／カラー／デジタル  
演出：勅使河原宏／音楽：ジョン・ケージ  
出演：勅使河原宏、イサムノグチ



© 1980 草月会

1980年、イサムノグチにより設計された草月プラザで行われた展示の記録。イサムノグチの未発表照明60点と勅使河原の新作陶芸150点が互いを引き立てながら空間を形作っていく過程を体験することができる。

## 石月花の宴

製作＝勅使河原プロダクション／1990年／12分／カラー／16mm  
演出：勅使河原宏  
出演：勅使河原宏、安藤忠雄、俵万智



© 1990 草月会

安藤忠雄によって設計されたライカ本社ビルのオープニングセレモニーとして企画された勅使河原の竹のインスタレーションの記録。無機質な空間に造られた人工的な自然の中、横笛の音色が広がりパフォーマンスが行われる。俵万智を聞き手とする対談の様子も収録されている。

## T V 作品

## 新・座頭市Ⅲ25話 虹の旅

制作：勝プロ＝フジテレビ／1979年／46分／カラー／デジタル  
監督・脚本：勅使河原宏／原作：子母沢寛／撮影：森田富士郎／音楽：村井邦彦  
出演：勝新太郎、中村属治郎、岩崎加根子、井川比佐志、松山久美、清水敏治



© ティーエムプロダクション

大商人・中村属治郎の娘が里帰りし、あんまを呼ぶ。番頭は「地元のあんまでは何かと噂が」と座頭市を招くが…。素晴らしい俳優陣を揃えた勝新の意欲と勅使河原の映画文法にこだわらず「科白やカットではなくシーンで表現する」演出方法が化学反応を生み出した怪物。

## 新・座頭市Ⅲ26話 夢の旅

制作：勝プロ＝フジテレビ／1979年／46分／カラー／デジタル  
監督・脚本：勅使河原宏／共同脚本：中村努／原作：子母沢寛／撮影：森田富士郎／音楽：富田勲  
出演：勝新太郎、稲見美和子、大川修、観世栄夫、松山真一、エム、清水敏治、中村属治郎、辻萬長



© ティーエムプロダクション

目が見えるようになった市が遊郭に上がり、露天風呂で乳房の男と出合い…。市の夢をほとんど科白もストーリーもなしに描いた勅使河原の実験的座頭市。見える市と見えない市がすれ違うなどシュールかつカッコいい場面が連続する。

## われらの主役 勝新太郎

製作＝近代映画協会／1976-77年／26分／カラー／16mm  
監督：勅使河原宏  
出演：勝新太郎



© 近代映画協会

近代映画協会が製作した「われらの主役」は、1976年から翌77年まで東京12チャンネルで全14話が放映されたドキュメンタリー番組である。本編は、俳優・勝新太郎が取り上げられ、監督は勅使河原宏が担当している。勝新が勅使河原の演出を観て自分も映画が撮れると確信したと述べているように、影響関係ははっきりと分かるインタビューになっている。

## トゥーランドット

製作＝勅使河原プロダクション／1992年／21分／カラー／16mm  
演出・舞台美術：勅使河原宏



© 1992 草月会

映画だけでなく総合芸術家だった勅使河原は、舞台にも精力的に取り組んだ。リヨンで行われたオペラ『トゥーランドット』の演出と舞台美術を依頼された勅使河原は団員たちと徐々に打ち解け、桜井久美のユニークな衣装にもマッチした演出で大成功を収めた。

## すさのお異伝

製作＝勅使河原プロダクション／1999年／36分／カラー／16mm  
演出・美術：勅使河原宏／脚本：高橋睦郎／音楽：高橋悠治／監付：サルドノ・W・クスモ  
出演：衣笠友章、小川真由美、李麗仙、藤森児



© 1999 草月会

スサノオを祭る熊野の神社跡で行われた野外舞台劇の記録。たった2回の公演のために一流のスタッフと出演者が集められた。膨大な竹によってつくられた舞台美術や高橋悠治による音楽が、観る者を古代の世界に誘う。